NATIONAL CONFERENCE

文部科学省　ユネスコ活動費補助金 SDGs達成の担い手育成（ESD）推進事業

全国幼児教育ESDフォーラム2021

テーマ

ESDを基軸とした質の高い幼児教育の推進と学校種間の接続：
幼児教育の原理・理念からのESDへの提言

本事業（令和３年度文部科学省ユネスコ活動費補助金）は、
ESD・国際化ふじのくにコンソーシアムを母体に、
多セクター連携によるSDGs達成の中核的な担い手となる教師教育の推進を目的としています。
３年目となる本年度は、過去２年の知見を幼児教育の原理・理念から省察し、
質の高い幼児教育と学校種間の接続についてのまとめの年と位置付け、
「全国幼児教育ESDフォーラム2021」を開催する運びとなりました。
SDGs達成のためには、多セクターの連携が欠かせません。
教育関係者以外の方々もお招きし、対話を通して
持続可能な社会の創り手の育成について考えていきます。

11/12 金　13:30－17:00

ホテルアソシア静岡　３階 葵［定員90名］
静岡市葵区黒金町56番地
および **オンライン（Zoom）**［定員設定なし］

主催　静岡大学教育学部　静岡大学未来社会デザイン機構サステナビリティセンター
協力　静岡市立日本平動物園　静岡県生活科・総合的学習教育学会
後援　静岡県教育委員会　静岡市教育委員会　浜松市教育委員会
ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）　全国ESD活動支援センター　関東地方ESD活動支援センター
静岡新聞社・静岡放送　教育新聞社静岡支局　ASPUnivNet（ユネスコスクール支援大学間ネットワーク）

参加費無料　要お申し込み

教育関係者でない方のご参加も歓迎いたします。ぜひお申し込みください。

感染症対策
ご来場前に検温を実施していただき、発熱や咳の症状等がないことをご確認ください。
体調のすぐれない方は、ご来場の自粛をお願いします。
ご来場時はマスクの着用、咳エチケット、手洗い・手指消毒等にご協力ください。

文部科学省　国立大学法人 静岡大学　SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS　70th Anniversary of Japan's accession to UNESCO

プログラム

全国幼児教育 ESDフォーラム 2021

会場 および Zoomによるオンライン※(いずれも要お申し込み)で開催いたします。下に記載のフォームよりお申し込みください。

※パソコンのほか、スマートフォンやタブレットPCでも参加できます。
※機器をお持ちでない方は、お知り合いの方に協力していただくなどして、ご視聴ください。お知り合いの方にもフォーラムについて広報していただけますと幸いです。

プレラーニングについて

フォーラムへ参加(会場/オンラインとも)される方は、**事前に動画(5分×3本程度)をご視聴ください。**
プレラーニング期間 [11/1(月)～11/12(金)] に、**Webサイト『knotworklab(ノットワークラボ)』内のバーチャルフォーラム会場にて動画を配信**いたします。動画はどなたでもご視聴になれます。またフォーラム終了後も継続して視聴可能です。

13:30～13:35	開会行事	静岡大学教育学部 学部長 熊倉 啓之 あいさつ
13:35～14:55	第一部	**多セクターから幼児教育にせまる** ～SDGsデジタル絵本にみるSDGsと幼児教育～ パネラー 柿島 安博氏(静岡市立日本平動物園 獣医師) 秋山 英範氏(春日製紙工業株式会社 直需部課長代理) 鈴木 守氏(常葉大学 教授) ファシリテーター 田宮 縁
15:10～16:30	第二部	**幼児教育の原理・理念からのESDへの提言** ～グローバルシチズンシップを育む環境～ ゲスト 屋敷 和久氏(宮崎県 ソダツバヒカリ ひかりの森こども園 園長) 深澤 邦洋氏(静岡県立静岡城北高等学校 教諭)
16:35～16:50	閉会行事	外部評価委員からのコメント

ポスター展示(予定)

- デジタルプラットフォーム「ノットワークラボ」の取り組み(静岡大学教育学部)
- SDGsデジタル絵本(静岡市立日本平動物園)
- 持続可能な社会の創り手を育む生活・総合(静岡県生活科・総合的学習教育学会)
- ユネスコスクールの遊びと生活展(プロジェクト代表園:静岡市立東豊田こども園)
- ミミズコンポストプロジェクト(富士市立田子浦幼稚園、富士市立原田幼稚園、富士市立蓼原保育園、常葉大学附属橘小学校、富士市立中央小学校)
- 保育プロセスの質リフレクションシート(静岡県教育委員会幼児教育推進室)
- 富士市教育・保育訪問事業(富士市保育幼稚園課)
- 東田プロジェクト(NPO法人里山を考える会)
- アプローチ・スタートカリキュラム研究(御殿場市立原里小学校)
- ESDを基軸とした質の高い幼児教育の推進と学校種間の接続(静岡大学教育学部)

(敬称略)

フォーラム当日までの流れ

参加お申し込み
9/12(日)～11/7(日)
下記の申し込みフォームから
お申し込みください

プレラーニング
11/1(月)～11/12(金)
下記のバーチャルフォーラム会場へアクセスし、
動画(5分×3本程度)を視聴してください

11/8(月)頃
オンライン(Zoom)参加の方へ
メールにてZoom招待状送付

フォーラム
(会場/オンライン)
11/12(金)

フォーラムに 会場で参加 される方へ

- 表面に記載の感染症対策にご協力ください。
- 定員につきましては、静岡大学の新型コロナウイルスへの対応を基準に設定しております。
- 開始時刻30分前(13:00)から受付開始となります。お時間に余裕を持ってご来場ください。

フォーラムに オンライン(Zoom)で参加 される方へ

- 招待状メールに記載されているURLにアクセスし、フォーラムに参加してください。開始時刻10分前を目安に入室できます。
- 事前にZoomのアプリケーションをダウンロードし、設定を済ませておいてください。
- パソコンのほか、スマートフォンやタブレットPCでも参加できます。
- 機器やZoomの設定等、技術的なご質問にはお答えできかねます。ご了承ください。

参加お申し込みはこちら
申し込み期間:9月12日(日)～11月7日(日)
https://r.qrqrq.com/5lpCt4Ux

バーチャルフォーラム会場はこちら
プレラーニング期間:11月1日(月)～12日(金)
https://knotworklab.com/forum/esdforum2021/

お問い合わせ
ESD・国際化ふじのくにコンソーシアム事務局
全国幼児教育ESDフォーラム2021実行委員長 田宮 縁(静岡大学教授) 静岡市駿河区大谷836 静岡大学教育学部
TEL/FAX:054-238-3055 E-mail:fukuchi.chifumi@shizuoka.ac.jp または tamiya.yukari@shizuoka.ac.jp

ユネスコスクール情報交換会のお知らせ | フォーラム前日の11月11日(木) 14:30より、ホテルアソシア静岡 2階『すいせん』およびオンラインにて開催いたします。

CONTENTS

01 「ESDを基軸とした質の高い幼児教育の推進と学校種間の接続」コンテクスト
静岡大学教育学部

03 環境教育(SDGs) への取り組み
静岡市立日本平動物園

05 みんなで地球の未来を考えよう「どっちがエコ？」
富士市立田子浦幼稚園

06 持続可能な社会の創り手を育む生活・総合
静岡県生活科・総合的学習教育学会

07 ユネスコスクールの遊びと生活展
静岡市立こども園ユネスコスクール

08 ミミズコンポストプロジェクト
富士市立田子浦幼稚園・原田幼稚園・蓼原保育園
常葉大学教育学部附属橘小学校
富士市立富士中央小学校

13 「保育プロセスの質リフレクションシート」活用支援事業
静岡県教育委員会義務教育課幼児教育センター

14 富士市教育・保育施設訪問指導事業
富士市福祉こども部保育幼稚園課

15 アプローチ・スタートカリキュラム研究
御殿場市立原里小学校・原里幼稚園・原里西幼稚園

16 東田プロジェクト
北九州市環境ミュージアム・NPO法人里山を考える会

＜11月からのメディア出演予定＞

●SBSテレビ『ORANGE』
11/02　富士市立田子浦幼稚園　静岡市立日本平動物園　静岡大学教育学部
●FMしみずマリンパル「Voice for SDGs～私たちのSDGs～」
11/01 静岡大学教育学部　11/08 田子浦幼稚園　11/15 原田幼稚園
11/22 蓼原保育園　11/29 橘小学校　12/06 富士中央小学校
12/13 静岡大学教育学部　12/20 静岡市立東豊田こども園
12/27 焼津市立黒石小学校　1月以降 県内高等学校3校
●K-mix 静岡エフエム放送「K-mix Wiz.（サスティナ・ライフ）」
12/07・14・21・28　静岡大学未来社会デザイン機構サスティナビリティセンター
12/14 サスティナビリティセンターESD・国際化推進部門
「発達段階に応じたSDGs普及啓発プログラムの開発と普及に関する実践的研究」

「ESDを基軸とした質の高い幼児教育の推進と学校種間の接続」コンテクスト

本事業は、多セクター連携によるSDGs達成の中核的な担い手となる教師教育の推進を目的としており、
先生方が主体となり学ぶ場を創造し、先生同士や多セクターをつなぐ教材やプロジェクトを開発・提供してきました。

スタートアップ期

2007年度
〜
2015年度

ESDの推進

- ESD教員研修会
- 環境教育学習プログラム

- 静岡市立日本平動物園
- 静岡県生活科・総合的学習教育学会
- 静岡市立こども園ユネスコスクール
- ノットワークラボ

コンセプト
「発掘」、「育成」、
「発信」、「つなぐ」

SDGs達成の担い手育成（ESD）推進事業
プロジェクトリーダー 梅澤収（静岡大学教授）

第1期

2016年度
2017年度
2018年度

ESD・国際化カフェ
ESD実践研修会
ESD実践研究会

メインテーマ　ESDを基軸とした質の高い幼児教育の推進と学校種間の接続

第2期

2019年度

幼児教育分野において初の全国フォーラム
全国幼児教育ESDフォーラム

2020年度

【2020年度サブテーマ】
持続可能な社会をめざした
多セクター連携

2021年度

【2021年度サブテーマ】
幼児教育の原理・理念からの
ESDへの提言

SDGsデジタル絵本

会場とWebのハイブリッドで開催

デジタルプラットフォーム
ノットワークラボ
［Webサイト］

SDGs達成の担い手育成（ESD）推進事業P2
プロジェクトリーダー 田宮縁（静岡大学教授）

ノットワークラボの歩み

スタートアップ期

2007
- ノットワークラボ / 静岡市立日本平動物園 •日本平動物園でのESD教員研修会を開始
- •日本平動物園 再整備事業開始
- ノットワークラボ •環境教育学習プログラム（ミミズコンポスト、クレージーグラスヘッド、パイナップルプランツ）開発に着手

2008
- 静岡市立日本平動物園 •日本平動物園運営委員（2期）

2009
- ノットワークラボ / 静岡市立日本平動物園 •日本平動物園との共同研究「生活科における動物園との連携による動物飼育」開始

「生活科における動物園との連携による動物飼育」報告書

2011
- •静岡県生活科・総合的学習教育学会発足

2013
- 静岡大学教育学部 •ASP.UnvNet（ユネスコスクール支援大学間ネットワーク）に加盟
- •日本平動物園 リニューアルグランドオープン
- 静岡大学教育学部 •静岡市立幼稚園ユネスコスクール加盟申請書の作成支援

2014
- ノットワークラボ / 静岡市立日本平動物園 •科研費基盤研究（C）「生活科における動物園との連携による動物飼育」（～2017）
- 静岡大学教育学部 •「幼稚園の遊びと生活展」開催（2017～「ユネスコスクールの遊びと生活展」／プロジェクトリーダー：芳賀正之教授）

エコパーク日本平動物園の園外保育、校外学習をブラッシュアップ！ティーチャーズガイド

2015
- ノットワークラボ / 静岡市立日本平動物園 •受託研究「日本平動物園環境教育プログラム普及事業」
- ノットワークラボ •「生活科における動物園との連携による動物飼育」の調査にて北九州市を訪問

第1期

2016
- ノットワークラボ / 静岡市立日本平動物園 •受託研究「日本平動物園環境教育プログラム普及事業」
- •文部科学省ユネスコ活動費補助金（～2018）プロジェクトリーダー：梅澤収教授

エコパーク日本平動物園と教室をつなぐティーチャーズガイド Vol.2

2017
- 富士市 •日本生活科・総合的学習教育学会第30回全国大会［富士大会］準備開始

第2期

2019
- ノットワークラボ •文部科学省ユネスコ活動費補助金（～2021）プロジェクトリーダー：田宮縁
- •日本平動物園 開園50周年
- ノットワークラボ / 静岡県教育委員会 •日教弘本部奨励金「保育実践を支える評価システムの開発～保育プロセスの質を高める園内研修～」静岡県教育委員会幼児教育センターとの連携開始
- ノットワークラボ / 静岡市立日本平動物園 / 静岡市企画課 •しずおか中部連携中枢都市圏課題解決事業助成金「SDGs普及啓発向上に向けた分かりやすい広報戦略」
- •全国幼児教育ESDフォーラム2019
- ノットワークラボ •御殿場市教育委員会指定研究「教育課程」御殿場市アプローチカリキュラム・スタートカリキュラムを核とした幼小の滑らかな接続に参画（～2021）
- ノットワークラボ •福岡教育大学ESDセミナーにて基調講演（福津市）ひかりの森こども園と出会う

No one will be left behind "誰ひとり取り残さない"

2020
- ノットワークラボ / 富士市 保育・幼稚園課 •受託研究「富士市教育・保育訪問事業」
- ノットワークラボ •ホームページを開設
- •全国幼児教育ESDフォーラム2020
- ノットワークラボ / 静岡市立日本平動物園 •SDGsデジタル絵本プロジェクト

SDGsデジタル絵本 どうぶつと いっしょに ちきゅうの みらいを かんがえよう ～もりは かんたんには かいふくしないんだ～

2021
- ノットワークラボ / 富士市 保育・幼稚園課 •受託研究「富士市教育・保育訪問事業」
- ノットワークラボ / 静岡市立日本平動物園 •SDGsデジタル絵本プロモーションWG
- ノットワークラボ / 幼稚園・保育園・小学校 •ミミズコンポストプロジェクト始動
- ノットワークラボ / NPO里山を考える会 •東田プロジェクト（NPO法人里山を考える会（北九州市）との連携）始動
- •日本生活科・総合的学習教育学会第30回全国大会［富士大会］
- •全国幼児教育ESDフォーラム2021

SDGsデジタル絵本プロジェクト広報資料

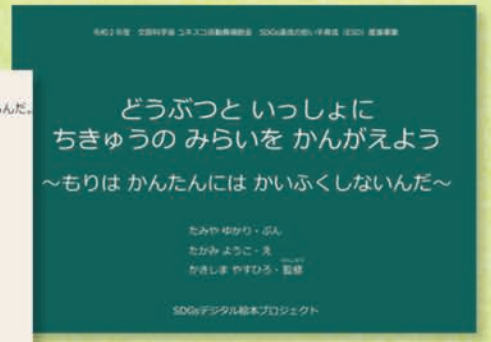
SDGsデジタル絵本 高学年バージョン 動物と一緒に地球の未来を考えよう ～森は簡単には回復しないんだ～

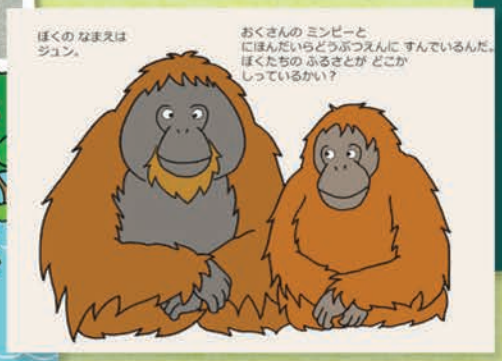
教育 EDUCATION

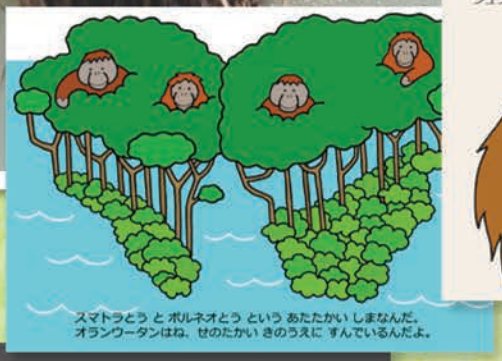
環境教育（SD

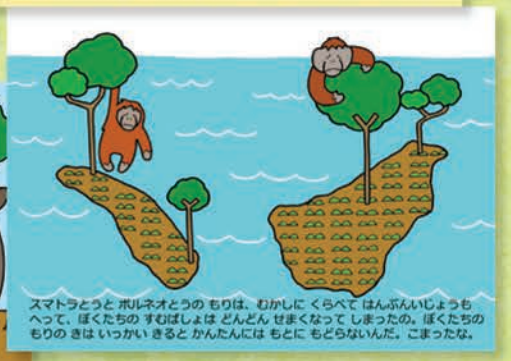
静岡大学教育学部との連携事業で「SDGsデジタル絵本（ど
～もりはかんたんにはかいふくしないんだ～）」（幼児や小学校

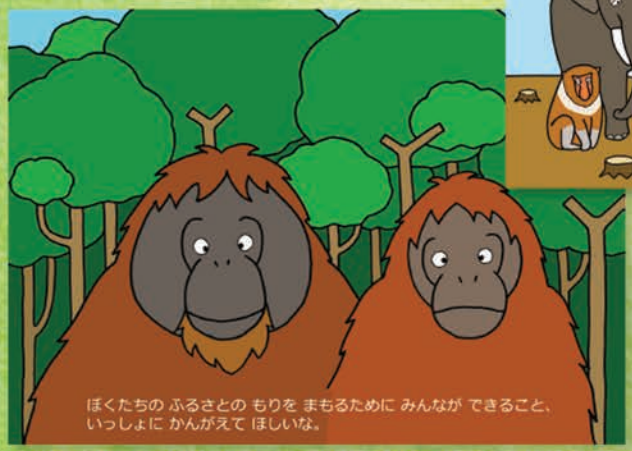
オランウータンが絶滅危惧種になっていることには、パーム油や紙を使う人間の生活が深く関わっています。絵本は、「パーム油などの原料となる森林を人間が壊しているので、その森に棲むオランウータンが非常に困っている」という内容で、それに対しみんなで出来ることを考えてみようという構成になっています。











※なお、8月には10歳以上（小学校高学年向け）のSDGsデジタル絵本も配布予定

制作の意図

経験の少ない幼い子どもたちが、世界で起きている危機の関連性、「つながり」を理解することは容易なことではありません。そこで発達段階を考慮し、身近な動物園にいるオランウータンのイラストやことばを使い、絶滅危惧種であるオランウータンと自分たちの生活が「つながっている」ことを感じとれるように努めました。

「多くの方が無料で活用できる」、「オランウータンを飼育している動物園間で活用することができる」また、「学校でのICTを活用した授業」など、幅広く利用していただけるようにデジタル絵本という形式を採用しています。

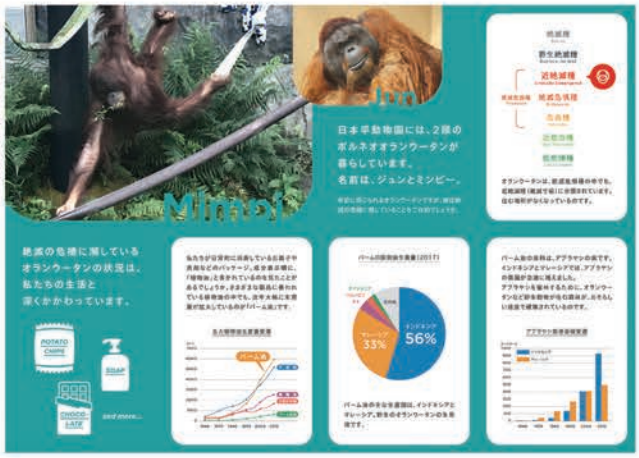
Gs）への取組み

うぶつといっしょにちきゅうのみらいをかんがえよう
低学年向け）を制作しました。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

日本平動物園 学習プログラム

動物たちの観察をとおして、動物や環境問題について楽しく学べるプログラムです。「幼児」、「小学生低学年・中学年」、「中学生～大人」、そして「先生向け（ティーチャーズガイド）」があり、全てセルフガイド式となっていますので、遠足や修学旅行などでぜひご活用ください。



このデジタル絵本のベースは、静岡大学教育学部が作成したSDGs啓発リーフレット「No one will be left behind “誰ひとり取り残さない”（動物と一緒に地球の未来を考えよう）」で、園内でも配布しています。なお、左ページの「SDGsデジタル絵本」も、日本平動物園学習プログラムのウェブページからダウンロードできます。

https://www.nhdzoo.jp/learning_program/index.html

みんなで地球の未来を考えよう「どっちがエコ？」

富士市立田子浦幼稚園

～質の高い教育をみんなに･･･自分で考え選び取る力を～

SDGs デジタル絵本プロジェクト

紙のまちの幼稚園として今までの経験を生かし、紙をリサイクルするために紙ごみの回収に取り組んでいた。

１２月、年長は、「日本平動物園のジュンとミンピーと一緒に地球の未来を考えよう」と、デジタル絵本を見た。

デジタル絵本を見た後、子どもたちは、「ジュンとミンピーが困っているから、「紙はこっち」と、自分たちで声を掛け合ってさらにゴミの分別を始めた。リサイクルという言葉も浸透してきた。

デジタル絵本のQRコード

幼稚園中のごみを紙とプラに分別し、リサイクル業者に渡した。

生活の中で、地球にやさしいことを考えるようになった。

保護者によるリサイクル講座を開催。ＳＤＧｓに取り組んでいる地元企業の方も参加してくれた。

３学期、年中にこの仕事を引き継いでもらうため、説明をした。

どっちがエコ？クイズ遊び　３学期

資源ごみのリサイクルを知り、「地球にやさしいこと」に興味を持ち始めた子どもたちに、２種類の行動パターンを演じて見せ、どちらが地球にやさしいか選ぶクイズで遊んだ。

○買い物でエコバックを使う人と、レジ袋を購入する人を見せた。大半はエコバックの人を選んだが理由が言えない。その中でA児が、「エコバックは何回も使えるから。」と発言した。子どもたちは、「何回も使えることがエコだ。」ということを確認していた。

○紙コップと紙ストローで飲む人と、プラスチックコップとプラスチックストローで飲む人を見せた。「洗えば何回も使えるからプラスチックの方がエコだね。」と自信たっぷりで言う。教師はエコなのは当然紙ストローだと思っていたので、子どもの捉え方を見て何でできているかではなく、捨てる時のことを考えてもらいたいと思った。B児は「紙は汚れてしまったらそのまま捨てるだけだけど、プラスチックはプラごみとしてリサイクルできると意見を言った。確かにこれまでプラごみをリサイクルできるものとして集めてきた。B児の言うことも最もだと思い、「どっちも正解だね。」と受け止めた。

○再生紙のトイレットペーパーについて考えた。「こっちはパルプ100%っていって、木を切って作ったもの。少し高いけど真っ白でフワフワ」「こっちは古紙を集めて作った再生紙100%」という情報を伝えた。C児「再生紙はちょっと薄いからたくさん巻いて使うけど、パルプはフワフワしているから少し巻けば拭けるからエコだ。」D児「安いから再生紙の方がエコだよ。」E児「木を使って作っていたら木がなくなっちゃうかもよ。」とジュンとミンピーの事を思い出していた。F児「２回ぐらい使えばもったいなくないよ。」皆「えっ、トイレットペーパーは流しちゃうから１回しか使えないよ。」とたくさんの意見が交わされた。

翌日、「昨日のエコクイズ楽しかった。」「またやってほしい！」という話題になると、G児「僕、ご飯を残さないで食べるエコ生活始めたよ。」と得意そうに答えた。

＜考察＞

子どもたちは、教師の言葉から得た情報と今までの経験から、一生懸命考え、自分なりの言葉で根拠をもって発言する姿に成長を感じた。また、子どもの意見から何を使ったら「エコ」なのかということだけではなく、どうやって使うか、どう処分するかなど、多方面から「エコ」を考えていくことが大切であると感じた。そして、今回のエコクイズでは、子どもから問題提起された。何が正解なのかを明確にするのではなく、私たち教師も考えるきっかけ、学び直すきっかけをもらった活動になった。

静岡県生活科・総合的学習教育学会
静岡大学教育学部ESD実践研修会

日本生活科・総合的教育学会
第３０回富士山・静岡大会
持続可能な社会の創り手を育む生活・総合

令和３年６月１９日富士市教育プラザにて静岡県生活科・総合的学習教育学会が主催した全国大会を静岡大学教育学部ＥＳＤ実践研修会の研究をベース「持続可能な社会の創り手を育む生活総合」をテーマに実施しました。
全国からオンラインで６００人以上の方が参加してくださいました。

２０１９年から全国幼児教育ＥＳＤフォーラムを静岡県生活科・総合的学習教育学会研究集会として共催してまいりました
この会を機会に静岡県生活科・総合的学習教育学会の研究の柱に「ＥＳＤ持続可能な社会の創り手を育む教育」が位置付きました。

デジタル絵本パイロットスタディにも参加しました。

平成29年6月日本平動物園で動物園を題材にした総合的な学習の時間の単元づくり研修会を実施しました。

平成27年12月日本平動物園で動物飼育の研修会を行いました

静岡県生活科・総合的学習教育学会のあゆみ

令和３年	富士山静岡大会（全国大会）
令和２年	幼児教育ＥＳＤフォーラム
令和元年	幼児教育ＥＳＤフォーラム
平成30年	木村吉彦先生講話
平成29年	梅澤　収先生講話
平成28年	神永典郎先生講話
平成27年	５支部共同研究大会 松本謙一先生講話
平成26年	野田敦敬先生講話
平成25年	平野朝久先生講話
平成24年	馬居政幸先生講話
平成23年	発足・嶋野道弘先生講話

静岡県生活科・総合的学習教育学会
原田　正裕

ユネスコスクールの遊びと生活展

2021
保育者の主体的な学びがスタート

協同的な遊びについて理解を図るために、ユネスコスクール遊びと生活展を核にESD・国際化ふじのくにコンソーシアム事業「ESD実践研修会」として、こども園職員有志が開催企画運営し保育教諭を対象に研修会を開催した。理論的に田宮氏からのアドバイスをいただき、幼児期発達や遊ぶ姿を明確にするとともに、主体性や協同性に対し共通理解を図ることができた。長い時間はかかったが、保育者の主体的な学びの確実な一歩を踏み出すことができたと感じている。

また、今年度は富士市や焼津市からも「遊びと生活展」に参加があり、交流を図り学びの意欲が高まった。参加園や来場者も年々増えている。継続的な開催によりみんなで学んでいこうという雰囲気ができつつある。

保育者の学び
～アンケート結果より～

☆協同的な学びにおける保育者の役割について学んだ。子どもの遊びを見守っているのではなく、保育者自身も遊びの中の一員として楽しんだり、考えたりしていくことが大切だとわかった

☆子どもの遊びからどれだけ多くの遊びの種を拾ったり、広げていったりしていくかが大切であるかを学んだ

☆子どもたちとドキドキ・ワクワクしながら、共に遊びを創りあげていけるような保育者になりたいと思った

☆何ができたかというよりも、その時抱いている“思い”にどれだけ共感して、価値づけやその価値に気付くことができるために、しっかりと子どもたちの姿を見とっていかなければならない

☆遊びと生活展に参加することで他園の子どもたちの遊びを見ながら、自園での教育、保育の取組みの参考になっている。今後の園内研修などで参考にして職員間の学びを深めていきたい

静岡市立こども園ユネスコスクール代表園　東豊田こども園園長　海老名恭子

身近な物や生き物からつながるリサイクル

ミミズコンポストプロジェクト

富士市立田子浦幼稚園

紙のまちにある幼稚園

紙資源を豊富に使った保育に取り組んでいます

年長児　紙を使った遊び

ビリビリ破いて、新聞紙のプールで遊ぼう！

紙を折り曲げて積むと、家になったよ！紙ってカ持ちだな。

もっとたくさん水を入れたら…どろどろになったよ。

トイレットペーパーは水をたくさん吸うんだね。

いろいろな紙を溶かして紙漉きをしたよ。どんな紙が出来上がるかな？ワクワクするよ！

高く積んで遊んだよ。手を放しても倒れないかな？

ミミズが幼稚園に来たよ！

田子浦幼稚園へようこそ！

触ってみよう！小さくて可愛いな♪

ミミズは暑すぎるのが苦手だから水を掛けて冷やしてあげよう。

スイカの皮とレタスを入れよう。新聞紙も食べるんだね。

エサをいっぱいあげすぎたら、コバエが出てきちゃった…

家を掃除して、きれいにしよう。

きれいにした家にはココナッツ繊維と腐葉土を入れたよ。カブトムシの匂いがするね。

溜まったミミズのおしっこは、水で薄めて畑にまくよ。

新聞紙をよく食べるね。

他の紙も食べるのかな？

ミミズちゃんが食べた後のうんちとおしっこは、栄養があるんだよね。

遊びに使っている紙をあげてみようよ。硬い紙も水に入れるとフニャフニャになるから食べるかもしれないよ。

コンポストの土がベトベトしてきたよ。

リサイクルできるものは何でも食べるんじゃないの？じゃあ、プラスチックも食べるかな？

ミミズちゃんの土とおしっこを使って、二十日大根を育てよう！栄養があるから、きっと大きく育つよ！

試してみよう！

ミミズのレストラン

色画用紙

・あまり食べないね。
・ミミズは歯がないから、硬いのは食べられないのかも。
・画用紙はおいしいから、少しずつ大事に食べているんじゃないかな？

お花紙

・ミミズちゃんが見えた！食べようとしているよ！
・噛み千切ってあるよ！ここ、穴が開いているもん。
・柔らかい紙は食べやすいんだね。

タフロープ

・全然食べていないね…。
・プラスチックはつるつるしているから、口から滑って食べにくいのかな？
・水につけても溶けない物は食べないのかな？

育ててみよう！

二十日大根の栽培

培養土にミミズちゃんの土を混ぜて種を植えたよ。

美味しい二十日大根になってね。

ミミズの栄養で大きく育つといいね！。

田子浦幼稚園の園児にとって身近な「紙」とミミズとの関わりを通じて、自然の循環に触れるきっかけになって欲しいと考えました。ミミズが紙を食べて土に還ることを知ったり、プラスチックは食べないことに気付いたりすることができました。

今後も、地球のことを『自分のこと』として考えていくきっかけになるような種を、沢山まいていきたいと思っています。

ミミズコンポストプロジェクト

幼 原田

原田幼稚園は、少人数を生かしてミミズと触れ合いながら環境教育を目指しました。

出会いが大事！
事前に絵本を見て、興味・関心を膨らめました。

- 腐りかけの葉っぱや古くなった野菜の皮を食べるよ。
- 目がないけど、光が当たると土の中にもぐるよ。
- ミミズの大人には“かんたい”っていうのがあって、子どもにはないよ。

富士市立原田幼稚園　2021.5.27

園長先生の Photo News

SDGｓ第3弾！　ミミズコンポストを作りました！

ミミズは目がないよ。そして心臓は5つあります！

さあ、この中にシマミミズさんが入っています！見たい？

うわー！本物のミミズだ！たくさんいるよ！すごいな！

シマミミズってかわいい！こわくないよ。やさしくしてね！　初めてミミズにさわったよ！

地球上でゴミを出すのは人間だけです。地球環境をより良くし、地球と人間と動物が共存し循環型生活を営むことで、次世代に美しい地球を受け継いでいきたいと願い、ミミズコンポストを導入することにしました。

ミミズって何を食べるのかな？ミミズはどうしてあげたら元気になるのかな？ミミズを飼うことで様々なことを学び、ミミズが人間が出した生ゴミを食べてくれて、環境に優しい天然有機肥料を生み出し、自分たちが育てている野菜の肥料になることを知り、体験的に資源の循環と地球環境に配慮した生活を学ばせたいと考えています。持続可能な社会の担い手を目指して。

なお、この取り組みは、「静岡大学教育学部田宮研究室」との共同研究による実践です。

富士市立原田幼稚園　2021.6.4

園長先生の Photo News

ミミズコンポスト始動！！　ミミズさんが元気に育っています！

さあ、ミミズさんは元気に育っているでしょうか？！

うわー！動いている！元気だね！お家に帰れて嬉しいみたい

全体をよく混ぜて、空気を入れるともっと元気になるよ。

これはきっとミミズのおしっこだよ！たくさん出るね。

ミミズのおしっこはとてもいい肥料になります。

重いから水で薄めて使います。じょうろに分けるね。

子ども達が植えた夏野菜、インゲンマメ、ピーマン、ミニトマト、枝豆、ナスの他、日差し防ぐゴーヤカーテンを育てるために、ミミズの肥料を子ども達の手でまいていきます。地球環境に優しい資源循環型の生活を学びます。

この取り組みは、静岡大学教育学部田宮研究室との共同研究による実践です。

好きな食べ物は…

ミミズのえさは残飯の中でも野菜くずが主になりますが、果物への食いつきがよく、特にメロンをあげた時は網目だけ残してペラペラになるまで食べつくす様子が見られました。「ミミズってメロンが好きなんだ！」と子ども達と発見し、先生たちが進んでメロンの皮を持ち寄り、あげるようになりました。

登園自粛中は『ミミズちゃんクイズ』として、ミミズを育てる中で知ったことを園から配信して家庭にもつなげていきました。

年中さんは、ミミズさんに声掛けをして友達のようになっていきました。

年長児クラスでは、発見した卵を飼育ケースに分けて、ミミズの様子を観察しました。

卵からミミズの赤ちゃんがたくさん生まれる様子を初めて見ました。新しい命が生まれることをみんなで喜び合いました。

教材研究を深めました。

ミミズが弱った時は先生たちで原因を探り、専門家に聞いて土を替えたり新聞紙をあげたりして、環境になれるまで待ってみる等、熱心に調べながら取り組みました。

◆◆◆◆◆ミミズと出会って◆◆◆◆◆

- 保護者も園での取り組みをきっかけに、園に寄った時には興味深そうに見たり、コンポストの意味や楽しさを感じたりして、「家庭でやってみようかな！」という声が上がっています。
- 子どもたちは、自分が食べた野菜くずをミミズが食べてくれることを知り、ミミズが身近な生き物になり、友達のように親しみを込めて関わっています。また、ミミズが元気に育ち、たくさん肥料を作ってくれるようになるにはどうしたらいいか、先生たちも夢中です。
- このプロジェクトは、教師も子どもも夢中になれる教材であり、このことこそがより本物の学びにつながるものと実感します。この体験が後に自然循環を学ぶ経験になればと願っています。

富士市立蓼原保育園　ミミズコンポストチャレンジ！

つなげよう！未来へつながるいのちのWA!

ようこそミミズさん

給食の調理で出る野菜の皮などを
利用して楽しんでいます

みみずのおうちってどんなんだろう？
子どもたちは興味津々♥

今日の野菜だよ

①野菜の皮むき・給食で出た野菜くずをもらいに行きます
②野菜くずはおままごと遊びの材料へ、今日は何の料理にしようかな
③みみずさんのごはんになるよ

いっぱい食べてくれるかな？

つくる責任・使う責任！だよ。
今日は給食で、すいか・メロン
がでたので、ちょっとおすそわけ！

ミミズのおしっこ
いっぱいでてきたね

SDGsすごろくでたのしく学ぶ

ゲームで学んでいます

春

夏

暑さ対策！保冷！

秋

保護者からの質問
- シマミミズって何？
- 畑のミミズでもコンポストはできるの？
- どんなたべものが好き？

保護者の方もSDGsの取り組みに関心を持っています♥

わーい！

ミミズさんのおかげで
とっても大きなさつまいも
が穫れたよ！

たちばな小 2年3組ミミズくん!!

6/30 新入生 とうちゃく～！

さいしょは ちょっと 不安だったけれど、だれかが「ミミズくんは、1年生と同じだね」って言ってくれて 安心したよ。

6/3 ひと足先に ぼくらのお家が とどいたよ。

7/5 みんなが ぼくらの テーマソングを 作って くれたんだ。

♫ ミミズの学校は 土の中 そっとのぞいてみてごらん そっとのぞいてみてごらん みんなで たんけん しているよ ♫

7/9 ぼくらが 作った肥料を 畑に まいてくれたよ。

夏やさいくん、ガンバレ！

すくすく 育つ 夏やさいくん…

まちにまった 収獲だ！

7/14 「衣がえだよ」って ブランケットから 新聞紙に。

9/1 スイカ、なし モモ、キウイ おいしい フルーツが いっぱい。うれしいな。のこさず 食べるぞ！

9/16 2年生の畑は 冬やさいの じゅんび。ぼくらも いっしょに がんばるからね！

毎日会いに来てくれて ありがとう。

あー すずしくなった！

ミミズコンポストプロジェクト

静岡県富士市立富士中央小学校　5年生の取り組み（総合的な学習の時間）

富士中央小学校は、全校児童 551 名、20 クラスの学校です。富士市の中心にあり、周りには大型商業施設や飲食店が多くあります。

富士市が SDGｓ未来都市に！

4 月に SDGｓについて学年全員で知る機会を設けた。

ふろしきやてぬぐいに富士市で有名な草花で草木染めをしたい。富士市で有名なものを柄に入れたい。

富士市をもっと有名にしたいという思いから、テーマを「SDGs Fuji Popular Project 」として、草木染をすることにした。

草木染をしよう

なかなか思った色にならないなぁ。

煮染めにも挑戦しました。玉ねぎなどの野菜くずで布を染めてみると、とてもきれいな色になりました。

苗を植える時期が遅かったなぁ。

肥料にお金がかかったなぁ。

野菜を育てて販売しよう

草木染に使う材料を買うお金は自分たちで稼ぎたい。

自分たちで畑を耕しました。土の感触や道具を使う難しさを知りました。

おいしい野菜を育てたい

夏野菜の苗（トマト・キュウリ・ナス・オクラ・ピーマン）と肥料を近所のスーパーマーケットに買いに行きました。

夏休みには当番を決めて、みんなで大切に育てました。

買う人の気持ちを考えてたかった。

しかし、夏野菜は思ったより育たずに、売り上げを伸ばすことはできなかった。

冬野菜にもう一度挑戦したい！！

・調べたら環境のことを考えた育て方があるらしい。
・肥料は自分たちで作ることはできないのかな。
・肥料が有機物だったら、買う人も安心するかもしれない。

ミミズコンポストに挑戦しよう

さわってみると冷たいね。土が湿っているよ。

ミミズを触れるようになったよ。

すごく動いているよ。

ある班の子どもの様子

A：ミミズを持てたよ。見て。
B：ミミズは暗いところが好きだから手を閉じたよ。
C:：新聞をかけてあげれば暗くなるね。
B:ミミズを戻してあげよう。
A:土の中にミミズが戻って行くよ。

ミミズが小さいからエサを細かくしてあげようよ

エサを給食室からもらったよ。食べているところを見たいな。

静岡大学の田宮縁教授を招聘して、研究授業を行いました。

・ミミズに全員が触れるようになる必要はないのでは。その子のできることを一生懸命やることが大切
・（小学校高学年だから）事前学習がよくできている。
・ミミズは生き物だから調べ学習がそのまま生かされるとは限らない。実践していく中でミミズコンポストを成功させてほしい。

「保育の質リフレクションシート」活用支援事業

シートの作成
静岡大学教育学部
教 授　田宮 縁

研修会の企画・運営
静岡県教育委員会義務教育課
幼児教育センター

シート作成の趣旨

保育は「環境を通して行う教育」であり、その多様性や曖昧さ、また、評価の難しさゆえに、保育の質の向上に向けた研修のあり方はどの園においても課題となっている。

そこで、自園の保育プロセス（環境構成やかかわり）について、子供の姿から振り返ったり、幼稚園教育要領等で求められている視点に沿って自己評価したりすることのできるツール（本シート及び手引き）を作成し、園内研修においてこのツールを活用することにより、保育者同士が対話を重ね、明日の保育に向かう手がかりを得られる研修が可能になるものと考え、教育委員会と静岡大学田宮教授とがパートナーシップを組み、事業を展開してきている。

シートの内容構成

○ 第１部 「基本コンセプトの視点から子供の姿を振り返る」
○ 第２部 「基本コンセプトの視点から日常の実践を自己評価する」
○ 第３部 「園内研修の振り返り」

研修会実施内容

(1) 市町幼児教育主管課や幼児教育関係団体からの申込受付

(2) 市町幼児教育主管課等が開催する研修会

（各園の代表である研修主任等が参加）

① 趣旨説明（幼児教育センター）
② シート作成の意図やねらいについて（田宮教授）
③ グループ協議
④ 講評（田宮教授）

※開会前に、ファシリテーターへの説明

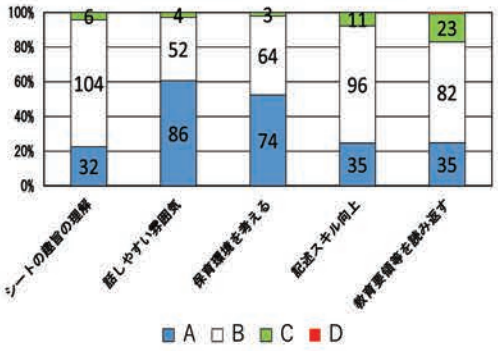
県内35市町のうち20市町で実施（予定を含む）

(3) リフレクションシートを活用した園内研修

市町等が開催した研修会に参加した研修主任等が自園にもどりコーディネーターとなって園内研修を実施

満足度

園内研修での満足度（144園・所より回答）



園・所での研修後のアンケートから

保育者としての学び

・チェック項目の中には初めて考える内容もあり、視野が広がった。
・子供の姿とその背景や成長を言葉にして伝えることの必要性を感じた。
・教師が意識するだけで、それが子供たちの興味や関心につながることが分かり、教師の役割の大切さを感じた。
・同じ言葉であっても、人によってとらえ方や考え方が違うことが分かった。園内で対話を重ねることで、保育観のすり合わせをしていくことが必要だと思った。

園内研修の充実

・シートの一部を使用して、繰り返し研修することもできる。短時間で取り組め、またやってみたいと思える研修になる。
・その場を見ていなくても、保育について語り合うことができる。多忙な中での園内研修のあり方の一つではないか。
・「ファシリテーターの手引き」をもとに話合いを進めたことで、先生方の考えや思いを引き出すための質問の仕方や共感の仕方についても学ぶことができた。

ポスター作成「静岡県教育委員会幼児教育センター」

富士市教育・保育施設訪問指導事業（静岡大学委託事業）

目　的

富士市では、令和2年度より平成26年度に「地方創生の推進に向けた連携協定」を国立大学法人静岡大学と締結した。市内の教育・保育現場における人材の育成・資質の向上を図ることを目的として、訪問指導事業を立ち上げた。同大学の教授等の派遣を要請し、専門性の高い指導・助言をしていただき、また、その指導を踏まえた講演会を実施している。

これら専門性に特化した観点からの指導は、今まで経験的に行われてきた部分が大きい研修に比べ、大学の教授等が教育・保育の現場に参加することにより、各園の相談に専門的な立場で直接理論付けや価値付けをすることができると考える。

富士ニュース　昭和21年11月15日 第3種郵便物認可　第22405号　（8）

質の高い保育の提供へ

幼稚園　静大の田宮教授が訪問指導

田宮教授（中央）が工作の様子を視察

R3.2.18
富士ニュースより

富士市保育幼稚園課

契約
事業報告

希望調査
感想報告

年２回の訪問指導

静岡大学

希望園（市内幼稚園・保育園・認定こども園62施設のうち希望する10園）

●１回目は、保育参観後外部からの意見として、園の良さや価値付けにつながったり、新たな課題・指導の提案の協議が進められる。
●２回目は、子どもたちや、保育の変化など１回目からの経過を見てもらうことができ、新たな指導や、一歩進んだ協議や話合いとなる。
●訪問指導であることで、希望園の悩みに直結した話合いとなる。

指導を受けた園の感想

●「気になる子」の気になる点と対応の仕方を詳しく教えて頂き、とても有難かった。その子の遊び方から、その子の心の状態を教えて頂いたり、気づかなかった視点からのアドバイスも頂けて勉強になった。（特別支援）
●夢中になって遊ぶ子ども達の姿はもちろん、常に悩みながらも子どもと向き合い保育をしている職員の思いを当日の一場面でなく、室内環境や職員同士のやり取りの中からも細かく丁寧に感じ取ってくださり、有難かった。（幼児教育）
●今まで何も問題にしていなかった事柄についてもっと子供たちに考えさせ、気づかせる保育にしなければならないと感じた。（幼児教育）
●せわしなく過ぎてしまう日々の中で、自分たちの保育を見つめ直すきっかけとなった。就学するにあたっての目標が見つけられたように思う（特別支援）
●思い切ってこの研修にチャレンジさせて頂いて本当に良かったと思っています。各クラスの先生たちの活動を肯定的に評価してくださり、その上で教材の工夫、教科と造形を結びつけるなどの課題も下さいました。保育日誌でも先生たちの造形活動に変容が見られるようになり、２回にわたり細かくご指導くださいました内容は誰にとっても得難い学びでありました。（美術教育）

事業の成果

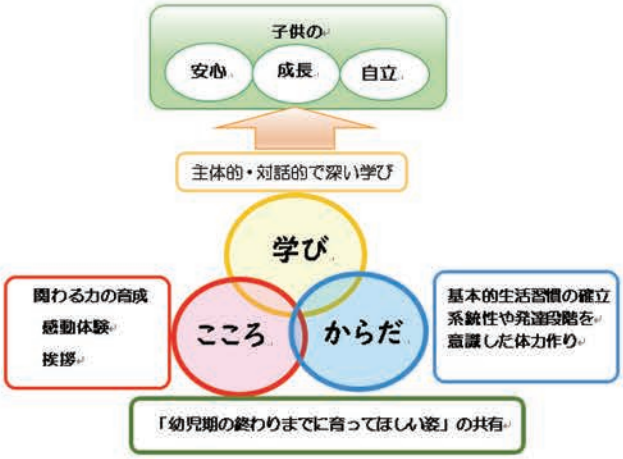
・訪問指導は普段の保育を参観し、園の課題に対しオーダーメイドの支援が可能。
・専門分野それぞれの教員の配置により、幅広い相談に応じてもらい、広い視野で客観的アドバイスが受けられる。
・報告等を通して、他園のことを知らせたり、幼保のつながりとなった。
・各園の価値付けや困り感など実態把握ができ、市と園とのつながりが深まった。
・訪問事業として持続可能な仕組みの重要性を実感した。

自ら考え　関りを深め　豊かな学び（遊び）を創り出す子供の育成

～子供の　安心・成長・自立を目指したアプローチ・スタートカリキュラムの工夫～

研修構想図：根底には「幼児期の終わりまでに育って欲しい１０の姿」がある

これまでの小学校入門期の教育活動を分析
第１週から青（生活に慣れる活動）が多いことを実感



四月は赤（子供同士の交流）をもっと増やしたい

キーワード１：交流（園児と児童・園小学校の教諭同士・１年生同士・１年生と上級生・１年生と教職員）

１年生って昼休みに予定を書くんだね

入学２日目お友達になりたいな

３年生とアサガオの種まき準備

先生の名前を教えてください

キーワード２：１年生が過ごしやすい環境

時々使う物はグループごとに保管

のり、はさみをセットにしてお道具箱すっきり

キーワード３：幼稚園での活動を生かす

幼稚園での手遊びを小学校でも

幼稚園でも楽しんだボール送りで学級対抗

キーワード４：スタカリ研究を全校体制で取り組む

四月に全教員が一年生を参観

一年生の様子を全教員で検証

北九州市公害克服に関する再調査ワーキンググループの進捗状況報告

北九州工業地帯を有する北九州市の住民は、1950 年代から 70 年にかけて大気汚染や水質汚濁を中心とする公害に苦しめられていた。それに対して立ち上がったのが、戸畑婦人会を中心とした女性たちである。シーツやお菓子の箱を使用した煤塵の測定や公害被害を訴える 8 ミリ映画『青空がほしい』を制作するなど婦人会の活動は社会教育という点からも評価を受け、全国的にも注目されていた。実は、この活動を含めた婦人会の公害追放運動の特徴は「争いがなかった」ということである。本当に「争い」がなかったのか、という疑問から報告者の追究は始まった。

出典：北九州市資料

現時点では、以下の 3 点について、一次資料にあたり研究を進めている。

調査のプロセス	現時点で明らかになったこと
「争い」に関する調査	○「争い」は存在 ○「訴訟」は見当たらない
四日市市との比較検討	日本で初めて大気汚染訴訟で勝訴した四日市市との比較 ○四日市市と北九州市における企業と「街」との関係の違い ○健康被害に関する資料の存在
「健康被害」に関する調査	○個々の健康被害に関する手記や資料が見当たらない **→北九州市の公害はそこまでひどくなかったのか・・・新たな疑問**

（補足説明）

第 1 ステップ「争い」

「争い」は八幡地区、戸畑地区において 3 件発生していた。

北九州市の「争い」
1901 年　八幡製鉄所ができる
1950 年　日本発送電中原発電所からの大気汚染に反対する活動
1960 年　日鉄化学工場　戸畑婦人会の反対運動・・・①
1963 年　日本セメント門司工場について 556 世帯が損害補償と集塵機設置を求める
1963 年　北九州市八幡区（現八幡西区）屋敷町住民が小野田セメントの被害について損害補償を福岡県に申し立て・・②
1968 年　八幡化学工業戸畑製造所が粉塵被害の座り込みについて福岡県に和解仲介の申し立てを行う・・③

第 2 ステップ「四日市市との比較検討」

新興工業団地である四日市市はコンビナートが稼働開始してから 2 年で喘息患者が出始め、8 年で提訴に至っている。対して北九州市は 1901 年に八幡製鉄所ができてから周りに工場ができ、時間をかけて工場地帯を形成してきた。つまり、この北九州市と四日市市は工場と「街」の形成プロセスや関係性が異なり、北九州市のように街と企業が密接であると激しい健康被害をもたらすような公害を起こしにくいのではないかという仮説も立てられる。しかし、この仮説は、企業城下町である水俣市の事例により否定も可能であり、今後、さらに調査を進めていく必要がある。

四日市市の「訴訟」
1959 年第 1 コンビナートが稼働開始
1961 年喘息患者がコンビナート周辺に現れ始める
1967 年四日市公害裁判提訴
1972 年喘息患者ら原告団勝訴

第 3 ステップ「健康被害」

公害訴訟について調査の中で、北九州市の公害対策の資料について、個々の健康被害や公害による疾患の病状に関する記録や家族の手記等を確認することができなかった。四日市公害裁判、大阪西淀川大気汚染公害裁判、倉敷公害訴訟（水島）では本人の証言、家族の手記、映像による呼吸器疾患発作の記録が残っており、裁判を起こすにおいて最も重要な資料であると考えられる。果たして、健康被害はなかったのか、それとも北九州市の公害は他地域のようにひどいものではなかったのか、これらは、今後の調査の課題である。

（主な参考文献）『北九州市公害対策史』北九州市、『よりよい人間生活を目指して』川崎市、『記録で見る大気汚染と裁判』独立行政法人環境再生保全機構

文責：田宮佳奈（北九州市環境ミュージアム インターン　北九州市立大学法学部 3 年）

NATIONAL CONFERENCE

EARLY CHILDHOOD EDUCATION ESD FORUM 2021